
編集後記

9月に入ったとは云え、なお暑い日が続いております。
先生方にはいよいよお元気でご活躍のことと存じます。

お手元に日本透析医会雑誌 15 巻 2 号をお届けします。本号は本来 8 月中にお届けする予定でしたが、8 月になって東金病院事故調査委員会の報告書が出ましたので、これを転載させていただくことになり、発行が遅れてしまいました。

この報告書を読みますと、日常何気なく行っている業務の一寸した不注意、不勉強や間違いが人間の生命を失わせると云うことを教えてくれます。全く他人事でなく、自分自身の問題として注意深く診療に当たるべきかと思えます。そのような意味で、是非この報告書をご一読下さい。

本号も診療報酬、介護問題、感染対策、臨床と研究、実態調査など多方面にわたって多くの論文をいただき、充実したものとなりました。いずれも透析医として知っておくべきことや日常臨床に必要なことが記されております。お忙しい先生方がこのように素晴らしい論文を執筆して下さったことに対して、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

本年 2 月 27 日に津田ホールで行われた研究セミナー『維持透析患者の感染症』の発表内容も『感染対策』の論文として掲載しました。いずれも重要なテーマですので、会員の方々、とくに本セミナーに出席出来なかった方々はこれをご熟読下さい。なお、日本医大 飯野靖彦先生の『維持透析患者の helicobacter pylori 感染症』は論文未着のため残念ながら掲載することが出来ませんでした。

5 月 21 日に日本透析医会の定例総会が東京のホテルニュー神田で開催されましたが、当日の資料（抜粋）とその際の主な決定事項とを掲載しました。これは透析医会の今後の活動の基礎となるもので重要ですので、やはりご一読をおすすめします。

現在、透析施設ではとくに医療事故、災害、院内感染の問題が発生し表面化しております。透析医療の質の向上と透析患者の QOL の向上のためにも、注意深く安全、至適な透析を行い、かつリスクの回避やそのための対策を立ててこれらを克服したいものです。

広報委員会委員長 飯田喜俊